

○少しずつ潮目が変わる通常国会

通常国会が始まりました。安倍政権の強引で、しかも、ハンドルは右にしか切れない危険な運転に対して、正常な民主主義とどこまでも平和を求めるかじ取りに戻すことが、最優先の課題です。

特定秘密保護法は、いったん廃止することを主張します。国会や第三者機関のチェック機能を前提にして、マスコミなどの取材権を保障し、真に必要な国家秘密に限定した法案を出していきます。

表面上は都合よく動いている経済の状況は、本当に私たちの生活を豊かにしているのか？原子力に大きく依存するような政策を許していいのか？年金や医療改革、雇用の安定施策など、国民生活の安心が将来にわたって確実に保障できる政策論議が棚上げにされてしまっていることに対して、私たちは、ぶれずに挑戦していきます。

外資の資金源になっていたアメリカの量的緩和(QE)が終了し、資金が引き揚げられつつあります。それに伴って、日本の株式市場の65%を占めると言われる外国人投資家も日本の株式市場から撤退していくことになると言われていています。人為的なバブルが、そろそろ崩れる兆候を見せているのです。残念なことは、株式バブルが消えた後のアベノミクスには、従来型の公共事業中心の財政出動しか残らないことになり、そのつけは、国の借金で賄われることとなります。さらに、医療や年金、子育てなどの目的で上げる消費税の財源が、実質的には、この公共事業の復活に回されてしまうことが憂慮されます。

○日本、アメリカ、韓国議員懇談会

日本とアメリカ、韓国の国会議員懇談会があり、共同の議長として参加しました。「米国の大統領府と国防総省は、中国の脅威を熱心に説いて、ピボットとカリバランスとかいう名で、米のアジア戦略の重要性を強調している。しかし、米議会では、政府とは違い、財政の歳出削減が第一議的な課題となっている。軍事費についても例外でなく、大枠では、世界中にコミットしている米軍を出来る限り本国に近く引き揚げてくることになる。その前提で、韓国や日本への米軍の駐留も引き上げる計画が進み、確実に縮んでいくことを覚悟しなければならないのではないか？」という私の問いかけに、安全保障委員会のメンバーでもある共和党のマクダーモット議員は、「まったくその通り。だからこそ、日本と韓国の友好関係が構築され

ることが大事で、この二国が同盟して、中国や北朝鮮の挑戦的な軍事行動を牽制できる体制を作る必要がある。」という話が出ました。

一方、韓国のセヌリ党の黄議員は「金正恩の恐怖政治は、何千人という人々が処刑されて、混乱し、すべてを不安定な状況にしている。私たちは、北が崩壊するというシナリオも描いておく必要があると思っている。その時に、朝鮮半島の統一に向けて、アメリカと日本がどのように韓国を応援してくれるかが鍵だ。」と言います。韓国の中には、韓国が中国や北朝鮮に対峙していくためにも、日本とのわだかまりを解消して、同盟関係まで進みたいと思っている人々は多くいます。このような状況が広がっている中で、どうして安倍さんは、韓国や中国にケンカの原因を与えるのか、日本の外交戦略がさっぱりわからないというのが、米韓両国の議員たちの結論だったと思います。

○電子書籍で文字文化革命を

文科省の副大臣時代からの懸案で、私が中心になって進めてきた電子書籍の海賊版対策、新たな著作権の創設のための著作権の改正が、この国会で成立する目途が立ってきました。私の最終的な目標は、この後、さらに二つのことを実現することにあります。一つは、電子化が進む国立国会図書館の蔵書に、インターネットを通じて、すべての国民がアクセスすることのできる状況を作り出すということです。これは、図書館革命です。これを可能とするには、著作者、出版社、図書館など、関係者の著作権や出版権をベースにした利害調整と、それを運営する組織体を作っていかなければなりません。アメリカのグーグルは、これを一挙に買い占めようとしたのです。日本の出版社や図書館が自らこのシステムを作ることは、アメリカではなく、日本の意思で文化価値を発信することにつながります。もう一つ、やりたいことがあります。日本の出版物を世界中の言葉に翻訳して、ネットを通じて発信することです。日本語がわからないことが世界に向けての発信の壁になっているとすれば、それを相手の言語に変換して発信することができれば、書籍を通して日本の文化が世界市場に広がるのです。電子書籍の広がりがそれを可能にしていると思っています。手始めに、日本語をそれぞれの言語に翻訳できる人材の発掘をして、人材バンクを作り、海外の出版社とも連携しながら、ネットを活用することができる事業体をつくりたいと思っています。今年の楽しみなチャレンジの一つです。